

CopeLab.

コペラボ

研究紹介セミナー

研究と
創造を
つむぐ。

ライフサイエンス分野において「今まで考えもつかなかった研究」、
「今後、大きなイノベーションを起こす可能性がある研究」に取り組んでいる第一線の研究者から、
最先端研究者のご紹介で繋ぐ、リレー形式のシリーズセミナーです。
研究内容や、その目標に向けた取り組みについてご講演いただきます。

オンライン講座

Zoom
ウェビナー**無料**

開催日程

第 29 回 2025年1/9(木) 17時～18時

第 30 回 2025年1/23(木) 17時～18時

お申込み

右記の二次元コードからアクセスしお申し込みください

二次元コード(Peatixサイト)から申込みできない方はメールでお問い合わせください
メールアドレス: event@copelcs.jp

第 29 回



第 30 回



講師紹介

第 29 回 門松 健治 氏

東海国立大学機構 理事、名古屋大学 統括副総長、
糖鎖生命コア研究所 所長

第3の生命鎖、糖鎖が拓く生命科学の未来

糖鎖はABO血液型を担い、タミフルなどの薬剤にも応用されています。しかし構造と機能の多様性のために研究は困難であり、同時に糖鎖に関する情報は他の生命鎖(核酸、タンパク質)に比べて圧倒的に限られていました。幸い、時代はこの障壁を乗り越えることをやっと許し始め、日本はこの分野で世界を牽引してきました。本講演では日本で始まったヒューマングライコームプロジェクトを中心に、生命科学の未来にアドレスします。

第 30 回 七田 崇 氏

東京科学大学 難治疾患研究所 神経炎症修復学分野
教授

脳機能回復は持続させられるか

脳損傷によって失われた脳機能は、リハビリテーションによって損傷後2～3ヶ月程度まで顕著な回復が期待できるが、その後は回復力が失われていき、残存した神経症状が後遺症として定着する。このように、脳を損傷した場合の機能回復のメカニズムは開始され、終了する。その分子・細胞メカニズムとは一体どのようなものであろうか。

主催：株式会社COPELコンサルティング 後援：一般社団法人日本疲労学会 協力：神戸リサーチコンプレックス協議会

次回予告

第 31 回 2025年2月6日(木) 栗原 晶子 氏 (大阪公立大学大学院 生活科学研究科 食栄養学分野 教授)

第 32 回 2025年2月20日(木) 松井 広 氏 (東北大学大学院 生命科学研究科 脳生命統御科学専攻 教授)